

令和7年度 青梅市立第六中学校 学校評価

令和8年2月

<学校経営方針の重点>

- 1 学力の定着・伸長      2 「持続可能な社会の創り手」の育成      3 コミュニティ・スクールの確実な運用と保護者・地域との連携・協働      4 教職員の働き方改革のさらなる推進

<評価指標>

- A: 目標を上回り達成できた      B: 目標を達成できた  
C: 達成にやや及ばなかった      D: 達成できなかった

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
学力の向上	「今求められる学力」を定着、伸長させる。	「主体的に学習に取り組む態度」の醸成を最優先課題として学力の向上を図る。	「六中授業スタンダード」(生徒の「主体的な学び」を導く「学習プロセス」の工夫などの取組)を日常的に確実に実践する。	A	主体的に学習に取り組み、自ら目当てを立てて取り組む態度の育成を図るため、年間を通じて「六中授業スタンダード」の徹底を図った。一人一台端末の活用は、家庭学習への活用も含め、「学習道具」としての有効活用を目指した。学力諸調査の結果では都平均等は上回ったが、反復学習については課題が見えた。ステップアップ教室は、年間を通して定期的に開催することができた。	昨年度と同様に生徒に、「振り返る、見通す、やり抜く」という行動目標を示した。ねばり強く学習に取り組む態度は育成されてきている。今後も継続し学習調整力の伸長に努める。ステップアップ教室の活用や、スタディサブリの運用を継続し、見通しを持った学習に取り組ませる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生たち、生徒ともによく頑張っていると思います。</li> <li>・端末を活用しての学習発表会は、各生徒の頑張りがわかり多くの方に見ていただきたい。</li> <li>・子供たちの熱心な取り組みは、少数教育ならではの素晴らしい教育の成果だと思えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い評価をしていただいたので、今後も継続して進めていく。</li> <li>・一人一台端末を有効利用できるように、スタディサブリの活用を進めていく。</li> </ul>
			一人一台端末を有効に活用しながら、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を学期に1回以上実践する。また評価の工夫・改善を図る。	B					
			ステップアップクラスの改善、また学習アプリの有効活用など、生徒の自学自習の態度を養う。	A					
			授業力向上を目指した校内研修の工夫・改善を行うとともに、校外の研修の積極的な受講を促す。	A			<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生たち、生徒ともによく頑張っていると思います。</li> </ul>		

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄	学校の見解と今後の方向性	
体験的な学習の充実	「持続可能な社会」の創造力と養育。	アントレプレナーシップ教育やSDGsに関する学習、また生徒の自主的な活動を機に、課題発見及び解決を図る力や創造性、自己有用感等を育成する。	新規ゲストティーチャーの活用や学習活動の工夫・改善など、総合的な学習の時間について学校全体で協議、実践する。	A	青梅学は昨年度から継続した学習活動であるが、昨年度から、生徒自らが課題を発見・解決する活動を主とした。また、異年齢集団での協議なども取り入れた。 ・方向性や取組等、また生徒に身に付けさせたい資質・能力等についてなど、研修等で理解・共有することができた。	新たなゲストティーチャーを活用し課題を発見、および解決する力を身に付けさせる。また、アントレプレナーシップ教育など、持続可能な社会の創り手としての素養も身に付けさせる。	A	・六中ゼミの発表、楽しみです。そして継続。来年以降が楽しみです。 ・数か月かけて企画する六中ゼミは良い試みだと思います。	・来年度も継続して、外部の講師を招き、生徒の興味関心を刺激していく。
			従来の校外学習等の体験的な学習を見直しながら、学習活動の工夫・改善を図る。	B	・講義・講演を実施際あたっては、話し合い活動や体験的な学習を取り入れ、全学年での取組として工夫・改善を図りながら実施した。 ・特別活動においては、生徒会活動を中心に、学校行事などへ参加機会を設定し、リーダーシップ及びフォロワーシップの育成を目的として生徒が様々な役割を果たせるような工夫した。	校外学習、宿泊を伴う学習について、内容等の検討を進めた。生徒に身につけさせたい力に焦点を当て、計画していく。また、学校行事の改善を進め、効果的に学習活動が進められるよう計画していく。	B	・少子化が進む中で学校の統廃合に向けて、七中以外とも共同で宿泊研修を考えてみてはいかがでしょうか。 ・少人数であるため、他校との交流を通じて外の世界を知れてよかったと考える。 ・貴重な経験だと思った。	・宿泊行事も含め、全体的な行事の見直しを進め、より生徒が探究活動ができるよう改善する。 ・他校を含め、様々な集団で活動できるよう工夫していく。
体験的な学習の充実			通常と異なる集団の中での体験活動等の場を設けるなど、達成感や成就感、また必要な資質等が得られるような学習活動の工夫・充実を図る。	A			A		
地域連携の推進	小学校や地域とのより有効な連携、協働を図る。	CSがより有効となるよう工夫・改善を加え、計画的・組織的に運用する。また、小学校や地域との連携、協働を充実させる。	再編したCS組織の下でコーディネーターと協働しながら、青梅学の実践やエンカレッジルームの運営などの新たな取組を協議・実施する。	B	・コミュニティ・スクール委員会は計画通りに円滑に実施することができた。また合同研修は外部講師を招き内容の充実を図ることができた。 ・地域の力を活用し、エンカレッジルームの運営を進めることができた。	・来年度以降も地域の方との協働体制を構築しエンカレッジルームの充実を図っていく。	B	・うまく再編が進んでいけば良いですが、うまく広げていくには工夫が必要になると思います。 ・エンカレッジルームのその後の動きが伝わってこない。 ・小曾木地区では当たり前にいる『ホタル』の重要性に気づいてもらえれば有意義であったと思う(私は大人になるまで当たり前と思っていた)	・CSの活動については、先進地域を参考にしながら、今後も改善を進める。 ・地域の活動や人々と協力し、諸活動を円滑に進められるよう改善する。

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄	学校の見解と今後の方向性
			避難所開設訓練や総合発表会などの従来の学校行事を見直し、保護者や地域との連携・協働について工夫・改善を図る。	B	・総合発表会は発表者を限定し、生徒を入れ替え制にすることで、全員が発表内容を共有できるよう改善した。発表方法についてはICT機器の活用を進め、より分かりやすい発表を行った。 ・避難所開設訓練に積極的な参加を進めた。部活動を通して地域活動への参加を促進することができた。	・事前指導やリハーサルを充実させ、発表内容の向上を図る。ICT機器の活用を進め、効果的な発表が行えるよう改善する。 ・来年度に向けては、総合防災訓練や地域活動の意義を事前に指導し、主体的な参加を促す。	B ・猛暑であったので仕方ないが、夏場の校庭は荒れていた。PTAにも声掛けして草刈りをしてよいと思う。 ・避難所開設訓練には、計画から一緒に作る過程で訓練が進みます。管理職の方の参画の不足を感じます。 ・茶道部として小曾木地区文化祭への参加や、スナッグゴルフ指導としてスポレクへ参加し地域との交流が図れたと思う。	・来年度は青梅市総合防災訓練への参加など、地域との協力を進める。 ・地域行事へ、全校生徒が色々な形で参加できるように、連携していく。
			小中合同研修会について内容等の工夫・改善を図る。また体験授業や合同行事の実施など、従来の取組について昨年度の検討内容を生かし実践する。	B	・小学校の研修担当との打ち合わせを随時行い、スムーズな運営を行うことができた。 ・今までの連携を生かし、協働して行事の運営を行った	・今年度の検討課題をもとに、行事の精選、改善に取り組む。	A ・小中学校音楽会では、一人一人が少ないながらきちんと役割（コーラス等）を果たして良かった。 ・縦の関係が良く築けていると思う。	・小中合同行事を実施した。参加対象を限定するなどの工夫をした。
			ホームページ担当を新設し、適時に情報を発信する。また変更した連絡用アプリも有効に活用する。	B	・ホームページ担当を新設し、情報発信体制の整備を行ったが、既存のホームページの整理・削除が十分に行えず、新たな案内についても周知が不十分であった。 ・連絡用アプリは、緊急時の連絡手段として活用を推進することができた。	・学校だよりにおいて、定期的に新しいホームページの案内を掲載するなど、周知の徹底を図る。	B ・ホームページも更新されず、マチコミも遅く若竹以外、学校の様子を知ることができなかった。 ・マチコミからのメールは3回のみ。ホームページは相変わらずR4の状態。 ・学校ホームページの不具合は致し方ないが、もう少し迅速に『若竹』等で周知すべきであったと考える。また、CS委員として要望したら迅速に来往してもらえて良かった。	・ホームページの担当者を新設し、学校だよりなどの掲載を行った。連絡用アプリを活用し、危険情報などの周知ができたが、情報発信が十分でなかったため改善する。
			地域主催の行事に対して、教職員が年に1回以上の参加を目途として積極的に関わり、地域との連携、協働を図る。	A	・地区文化祭や地域の環境に関する諸活動に、年1回以上、教員が分担して積極的に参加した。地域の活性化を見据えた視点を持ち、関係機関との連携および協働を進めた。	・地域内の様々な状況を踏まえつつ、今後も関係諸機関との連携、および協働を図っていく。	A ・地域の防災訓練には教職員も参加していたが、どの教員がどの行事に参加していたか不明である。	・生徒も教員も、地域の方と積極的に関わることができた。学校だよりなどで、参加の様子を発信していく。

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
働き方改革の推進	教職員の「働き方改革」をさらに推進する。	教職員のライフ・エンゲージメントの高揚、ウェルビーイングの向上を図る。	昨年度から継続し、月2回の定時退勤日の設定、また年3回以上の積極的な年休取得、長期休業日の日直勤務の軽減等に取り組む、教職員のライフ・エンゲージメントの高揚を図る。	A	・定時退勤日や長期休業期間中の日直勤務の工夫を行い、年次有給休暇の取得を推進することができた。 ・一方で年次有給休暇の取得状況については、教員間で差が見られるため、全員が計画的に取得を進められるよう、引き続き改善に取り組んでいく。また、教員間のリスクリング等を支援するため、書庫を職員室に設置し、自己研鑽に取り組みやすい環境整備を行った。	・今年度の取り組みや工夫を次年度以降も継続して実施していく。 ・全職員の負担が均衡するよう業務分担の見直しを行い、有給休暇を取得しやすい環境づくりに努める。	A	・教職員の働き方改革は分からないので評価できません。 ・CSの推進に代表される外部との連携や協働は、どう円滑化しますか。どう協力できるか模索したいと思いますが。	・定時退勤日の実施、長期休業中の職務の軽減など、勤務改善を進めることができた。改善点を理解していただくための発信を続けていく。 ・変更した組織とCSの連携の形を模索する。
			道徳授業における指導、また授業外の学級指導等において、計画的かつ意図的に学年ローテーションを実施する。	B	道徳の授業や給食指導は、学年職員によるローテーション体制で実施することができた。総合的な学習の時間については、全校体制で授業を実施した。	全教員で授業を担当・分担することで、業務の均等化を推進していく。	A		
			再編した分掌組織また校務の在り方について、随時協議しながら、次年度以降の運用について検討し実践を図る。	B	分掌組織を再編し、負担軽減を図る運営を実施した。なお、依然として一部の担当に負担が偏っている状況が見られるため、改善を図っていく。	次年度も新たな組織体制の構築や校務処理の工夫・改善を進めていく。	B		